15　　医師の言うこと　　文法　頻出助動詞　ず・ぬ・けり・む・なり

読解　具体的内容をつかむ

あるが、男に「君は必ず今秋の頃、何ぞのにかかりはむ」と言ふを、むづかりて、「いかでさることあらむ」と秋までは言ひⓐぬ。つひに病にかかりてⓑければ、「言ひ当てし医師に会はむもぶせなり」とて、よその医師招きてけり。さまざま薬与へたるが、㋐しるしも見えず。初めの㋑ほどは「内の損ねしなるべし」とて、内整ふる薬なりければ、胸のあたりいよいよ苦しく、ものも見入れⓒねば、医師も心得てその薬はやめつ。こたびは汗にとらむとしてもしるしなく、下さⓓむとすればいよいよ苦し。せむかたなくて試みにふと調ぜし薬、その病に当たりやしけむ、つひにその病癒えたり。「命助けし人ⓔなり。家傾けても報はまほしく思ひし」となり。

さるに、「今秋は必ずこの病づべし。この薬今より飲み給へ」と言ふを、今一人の男、「いかで①さあらⓕむ。されど、②さ言ひ給はば飲みて参らすべし」とて、のやうに飲みゐたるが、つひにその病もらⓖず、常に変はりしことなかりしかば、「さればこそ。かくあるべしと思ひしを。あの薬飲までもあるべきものを」と言ひしとや。

【原文】

ある医師が、男に「君は必ず今秋の頃、何ぞの病にかかり給はむ」と言ふを、むづかりて、「いかでさることあらむ」と秋までは言ひぬ。つひに病にかかりてければ、「言ひ当てし医師に会はむも面ぶせなり」とて、よその医師招きてけり。さまざま薬与へたるが、しるしも見えず。初めのほどは「内の損ねしなるべし」とて、内整ふる薬なりければ、胸のあたりいよいよ苦しく、ものも見入れねば、医師も心得てその薬はやめつ。こたびは汗にとらむとしてもしるしなく、下さむとすればいよいよ苦し。せむかたなくて試みにふと調ぜし薬、その病に当たりやしけむ、つひにその病癒えたり。「命助けし人なり。家傾けても報はまほしく思ひし」となり。

さるに、「今秋は必ずこの病出づべし。この薬今より飲み給へ」と言ふを、今一人の男、「いかでさあらむ。されど、さ言ひ給はば飲みて参らすべし」とて、他人事のやうに飲みゐたるが、つひにその病も発らず、常に変はりしことなかりしかば、「さればこそ。かくあるべしと思ひしを。あの薬飲までもあるべきものを」と言ひしとや。

問一　次の「内容わしづかみ」の空欄に本文中の語句を書き入れよ。

［　　　］はある［　　　　］に、今秋［　　　］にかかるだろうと言われた。信じなかったが本当に的中し、［　　　　　　　　　　］に［　　　］を処方してもらって治った。一方、医師の指示どおりに薬を飲んだ別の［　　　　　　　　］は、結局［　　　］にならず、薬を飲んだことを無駄に思った。

問二　波線部㋐・㋑の意味を答えよ。〈4点×2〉

㋐〔　　　　　　　　　　〕

㋑〔　　　　　　　　　　〕

問三　二重線部ⓐ～ⓖの助動詞の文法的意味として最も適当なものを選べ。〈2点×7〉

ア　意志　　イ　打消　　ウ　過去

エ　完了　　オ　推量　　カ　断定

ⓐ〔　　　〕　ⓑ〔　　　〕　ⓒ〔　　　〕　ⓓ〔　　　〕

ⓔ〔　　　〕　ⓕ〔　　　〕　ⓖ〔　　　〕

問四　傍線部①「さ」の指す具体的な内容を答えよ。〈10点〉

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問五　傍線部②を現代語訳せよ。〈8点〉

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問六　本文で描かれている愚かさの内容として適当なものを二つ選べ。〈5点×2〉

ア　医者から処方された薬を正しく飲んでいなかった。

イ　病にかかることを予見した医者に感謝し、信頼を厚くした。

ウ　偶然治療できたに過ぎない医者に必要以上に恩義を感じた。

エ　医者の言うことを信じず、薬を飲まなかった。

オ　健康なままでいられたのが薬のおかげだと考えなかった。

カ　薬を飲んだらすぐに良くなるだろうと勘違いした。

〔　　　〕〔　　　〕

【解答】

問一　男／医師／病／よその医師／薬／一人の男／病

問二　㋐＝効果　㋑＝時〈4点×2〉

問三　ⓐ＝エ　ⓑ＝ウ　ⓒ＝イ　ⓓ＝ア　ⓔ＝カ

　　　ⓕ＝オ　ⓖ＝イ〈2点×7〉

問四　自分が秋に病気になること〈10点〉

問五　そのようにおっしゃるならば〈8点〉

問六　ウ・オ〈5点×2〉

【現代語訳】

ある医者が、男に「あなたは必ず今年の秋の頃に、何かの病気にかかりなさるだろう」と言うのを、（男は）腹を立てて、「どうしてそのようなことがあるだろうか、いやない」と秋までは言っ（てい）た。とうとう病気にかかってしまったので、「言い当てた医者に会うようなことも不名誉だ」と言って、ほかの医者を招いてしまった。さまざまに薬を与えたが、効果も見えない。初めの時は「内臓が悪くなったのだろう」と言って、内を整える薬であっ（たのを飲ませ）たところ、胸の辺りがますます苦しく、何も目に入らないので、医者も理解してその薬はやめた。今度は汗で（病を）取ろうとしても効果がなく、（腹を）下そうとするとますます苦しい。どうしようもなくて試しにふと調合した薬が、その病気に合ったからだろうか、とうとうその病気が治った。「（よその医師は、私の）命を助けた人だ。家を貧しくしても恩返しをしたく思った」ということである。

ところが、「今年の秋には必ずこの病気が出るに違いない。この薬を今から飲みなされ」と（ある医師が）言うのを、もう一人の男が、「どうしてそのようなことがあるだろうか、いやない。けれども、そのようにおっしゃるならば飲んで差し上げよう」と言って、他人事のように飲み続けたところ、とうとうその病もおこらず、いつもと変わったことがなかったので、「思ったとおりだ。そうだろうと思っていたのに。あの薬は飲まないでもよいのに」と言ったかということだ。

【補充問題】

問１　次の語の意味をそれぞれ答えよ（終止形でよい）。

①「心得」（５行目）

②「参らす」（９行目）

問２　「何ぞの病にかかり給はむ」（１行目）を現代語訳せよ。

問３　「よその医師招きてけり」（３行目）とあるが、男はなぜ「よその医師」を呼んだのか。最も適当なものを選べ。

ア　病気を言い当てることはできても、治療の腕はないと思ったから。

イ　自分の病気が間違いだと思い、ほかの医師に診てもらおうとしたから。

ウ　病気を言い当てた医師が自慢げな顔をするのが嫌だったから。

エ　かつて怒っているので、病気を言い当てた医師には会いにくいから。

【補充問題解答】

問１　①理解する　②差し上げる

問２　何かの病気にかかりなさるだろう

問３　エ